

<https://www.kiyotaminami-e.sapporo-c.ed.jp/>

令和8年10月2日

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果より

8月、全国学力・学習状況調査（4月23日、6年生対象）の結果が文部科学省より全国に公表されました。以下に、調査結果とそれらから読み取ることができる本校の状況を記載いたします。

この調査が、本校児童の状況や実態のすべてを表しているわけではありません。しかしながら、6年生の4月末段階での学力の傾向を示し、過去5年間の指導や教育内容を把握することで、本校児童の傾向を推し量る上での重要な資料となるものです。結果を公表することで、保護者・地域の皆様と共有し、学力向上のための授業改善とともに、生活・学習習慣の改善を図っていきたいと考えております。引き続き、ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

全国学力学習状況調査の目的と内容等

【調査の目的】

- ①学力・学習状況の把握：全国的な視点で子どもたちの学びの状況を分析します。
- ②指導の改善・充実：分析結果をもとに、学校での学習指導や教育活動の質を高めます。
- ③教育環境の向上：継続的に成果と課題を検証し、子どもたちの成長に活かします。

【調査の対象学年・内容・表記方法】

- ① 対象は6学年児童で、調査は前年度までの本校教育活動5年間の結果として受けとめます。
- ② 内容は大きく分けて3つあり、「国語」「算数」「児童質問紙調査」となっています。
- ③ 各領域のうち、全国平均との比較、本校として大切にしていきたい課題、今後の学校としての改善・推進していく目標を各欄に表記しています。



1. 学力調査の結果（各教科の状況）



	本校の概要	⇒今回調査における課題⇒	改善の方向
小学校 国語	・「読むこと」 ○全国平均に比べ、<u>上回っています。</u> ・「書くこと」 ●全国平均に比べ、<u>下回っています。</u> ・「話すこと・聞くこと」 ●全国平均に比べ、<u>下回っています。</u> ・「言葉の特徴や使い方」 ●全国平均に比べ、<u>やや下回っています。</u> ・「情報の扱い方」 ●全国平均に比べ、<u>下回っています。</u>	●「書くこと」の領域において、『<u>自分の考えを相手に伝えるように整理し、文章全体を組み立てを工夫して書くこと</u>』に対して苦手傾向があるようです。 ●「話す・聞く」や「情報の扱い方」の領域において、『<u>複数の情報を比べたり、整理して話し合ったりする力</u>』に課題がありました	○「読む力」から「伝える力」へ～対話で深める国語の授業～ 「書くこと」では、相手と目的を明確にして「文章の型」に沿って書く授業を各学年で取り入れていきたいと思います。また、本校の強みである「読む力」を活かして友達同士で読み合い、組み立てを意識しながら自分の考えを表現する力を育てていきます。 「話す・聞く」では、目的を明確にし、友達と情報を比較・整理しながら、対話を通して考えを深めるような授業をしていきたいと思っています。

	本校の概要	⇒今回調査における課題⇒	改善の方向
小学校 算数	・「測定(図形や面積など)」 ●全国平均に比べ、<u>大きく下回っています。</u> ・「数と計算」 ●全国平均に比べ、<u>下回っています。</u> ・「データの活用」 ●全国平均に比べ、<u>やや下回っています。</u>	●「測定」の領域において、『<u>たて・よこ・高さなどの長さから、広さ(面積)や重さ、かさ(体積)を求める公式の【意味】を理解し、実際に使うこと</u>』に課題があります。 ●「数と計算」の領域において、『<u>分数や小数の大きさを数直線などの図に表したり、計算の仕方を言葉で説明したりすること</u>』に課題があります。	○「なぜ？」を言葉と図で解き明かす算数 「測定」領域では、ただ計算を解くだけでなく、公式の意味を深く理解させた上で、「どうしてこの式になったのか」を友達に説明する時間を授業に取り入れていきたいと思っています。 「数と計算」領域においては、分数・小数を数直線などで表し、「これくらいの量なんだ」と目で見て実感できる工夫を取り入れていきたいと思っています。また、身の回りのものを実際に測る活動を通し、量の感覚を豊かにするような授業をしていきたいと思っています。

2. 児童質問紙より

学校質問紙は、子どもたちの基本的な生活習慣、学習環境、生活の諸側面に関する調査をアンケート形式で問うものです。全部で73問ありました。以下に結果と、そこから読み取れる特徴をまとめます。

※各項目の割合(%)は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合です。

1. 全国平均を上回っている項目(本校の強み・良かった点)

家庭内での温かいコミュニケーションや、他者を思いやる豊かな人間性、多様な考え方を受容する好ましい態度が際立っています。

1. 家族との緊密なコミュニケーション

質問(7):学校での悩みについて、親や家族とどれくらい話しますか

「ほぼ毎日」の回答割合:本校 28.4% / 全国 14.7%(+13.7 ポイント)

分析:全国的に低い数値ではありますが、全国平均の約2倍に達しており、児童が学校での悩みや不安を家庭で打ち明けられる、健全で温かい家族関係・対話環境が築かれていることが分かります。

2. 多様な意見に対する受容・興味関心

質問(16):自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

「当てはまる」の回答割合:本校 50.0% / 全国 31.9%(+18.1 ポイント)

分析:自分とは異なる他者の意見を拒絶せず、むしろ「楽しい」と肯定的に捉える傾向が顕著です。他者を尊重する学級経営や対話重視の授業づくりが実を結んでいると考えられます。

3. 社会貢献への意欲(豊かな心の育ち)

質問(14):人の役に立つ人間になりたいと思いますか

「当てはまる」の回答割合:本校 79.7% / 全国 70.8%(+8.9 ポイント)

分析:他者の役に立ちたいという社会的責任感や貢献意欲が非常に高く育っています。※質問(11)での「困っている人を進んで助ける(本校 55.4% / 全国 47.3%)」の高さとも合致しており、日常生活における実践力にも繋がっています。

II. 全国平均を下回っている項目（学校と家庭で連携して取り組むべき課題）

基本的な生活習慣（食・睡眠・メディア利用）の乱れが顕著であり、児童の健全な成長と学習の基盤を整えるため、学校と家庭との連携が急務となる項目です。

1. 朝食の摂取習慣の乱れ

質問(1): 朝食を毎日食べていますか

「している(毎日食べている)」の回答割合: **本校 74.3%** / 全国 83.1%(-8.8 ポイント)

分析: 朝食を毎日摂取する割合が全国平均を下回っています。午前中の集中力や体力維持といった、日々の学習や生活の土台となる基本的な生活習慣に課題が見られます。

2. 起床時刻の不規則さ

質問(3): 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

「している(規則正しく起きている)」の回答割合: **本校 43.2%** / 全国 55.9%(-12.7 ポイント)

分析: 毎日ほぼ同じ時刻に起きられている児童が半数以下に留まっています。生活リズムの乱れが児童の学習意欲や気力の低下を招く要因になっているのかもしれません。

3. スマートフォン等の長時間利用(メディアコントロール)

質問(4): 普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等で SNS や動画視聴などをしますか

「2時間以上」利用している児童の合計割合: **本校 66.2%(※1)** / 全国 57.6%(※2)(+8.6 ポイント)

※1: 4時間以上(21.6%) + 3~4時間(17.6%) + 2~3時間(27.0%) の合計
※2: 4時間以上(21.9%) + 3~4時間(15.7%) + 2~3時間(20.0%) の合計

分析: 平日の家庭学習時間を圧迫しかねないメディア（SNS や動画等）の利用時間が長い傾向にあります。質問(3)の起床時刻の不規則さを引き起こす要因となっている可能性が高い状況です。



3. 保護者・地域の皆様とともに取り組みたいこと

【学校で】今年度の学習状況調査から得られた成果と課題をもとに

① 「伝える楽しさ」と「理由を説明する力」を育てる授業改善

国語科を中心に「私はこう考えます。なぜなら～」といった記述のパターン（型）を引き続き指導し、自分の意見を整理して書く力を高めます。また、算数科でもただ計算を解くだけでなく、公式や数の意味を理解させた上で、ノートに根拠や考え方を書いてから友達に説明し合う時間も授業に取り入れながら、双方向に伝え合う力を育てていきます。

② 自分で進んで学ぶ意欲を高める工夫

本校の子どもたちは「自分で計画を立てて勉強する習慣」もよく身に付いていました。この強みをさらに伸ばすため、単に知識を暗記するだけでなく、身の回りの生活場面（重さや広さを実際に測るなど）と結びつけた「学びの楽しさ」や「解けた喜び」を実感できる授業づくりを行い、主体的に学ぶ意欲をさらに引き出していきます。

③ 居場所があり、お互いを認め合える学年・学級経営

いじめを許さない心や人を思いやる気持ちもたいへん高い水準にあります。一方で「自分には良いところがある」と自信をもっている児童はまだ十分とは言えない結果でした。学校生活の中で、子どもたち一人一人が「自分の役割」や「活躍の場」を実感し、お互いの良さを認め合える温かい学年・学級づくりを引き続き進めてまいります。

【ご家庭で】お子様の健やかな育ちと学びの土台を築くため、ご家庭でも協力いただけますと幸いです。

① メディア(ゲームやスマホ、動画)との上手な付き合い方と、睡眠・読書時間の確保

1日のゲーム時間が4時間以上と回答した児童の割合が、全国平均と比較して高くなっています。低学年の子どもたちが休み時間に話す話題も携帯ゲームや Youtube と、ゲームやスマホ、動画は全校の子どもたちにとってかなり身近な存在になっている様子がうかがえます。使用時間や使い方のルールをご家族でしっかりと話し合っ決めていただき、十分な睡眠時間や、読書等に親しむ時間を確保できるよう、見守りと声掛けをお願いいたします。

② 日常生活の中での「家族の会話」

6年生のみならず、学校での出来事や日常の出来事について、ぜひご家族でたくさん会話をしてください。「どうしてそう思ったの?」とお子さんの意見の「理由」を聞いてあげることで、自分の考えを整理して伝える力が自然と育まれます。また、低～中学年のお子さんであれば、お買い物などの日常生活の中で「どちらがどれくらいお得かな?」といった算数的な会話なども、ぜひ親子で楽しんでみてください。

③ チャレンジしようとする子どもたちへの「励ましと承認」

失敗を恐れず、新しいことや難しいことへ挑戦しようとする心を育てるため、結果だけでなく、一歩踏み出した「がんばり」や日常の「良いところ」をご家庭や地域でもたくさん褒めて、言葉に出して認めてあげてください。大人からの温かい言葉が、子どもたちの自己肯定感や「次もやってみよう!」という大きなエネルギーになります。